

2. 参加青年の構成

(1) 国別・年齢別参加青年数

国名	年齢 性別	「世界青年の船」事業（オンライン）						計	
		17～19歳		20～24歳		25～30歳		男性	女性
		男性	女性	男性	女性	男性	女性		
オーストラリア		0	0	1	2	0	2	1	4
日本		0	4	1	24	2	8	3	36
ニュージーランド		0	1	1	0	0	0	1	1
オマーン		0	0	0	0	2	3	2	3
ポーランド		3	0	0	2	0	0	3	2
ロシア		0	1	1	2	0	1	1	4
南アフリカ		0	0	1	1	1	2	2	3
スリランカ		0	0	2	0	1	2	3	2
スウェーデン		1	1	0	1	1	1	2	3
計		4	7	7	32	7	19	18	58
(注) 令和4年2月28日現在						合計		76	

(2) 国別・職業別参加青年数

国名	職業 性別	公務員		会社員		自営		教員		学生		その他		計	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
		「世界青年の船」事業（オンライン）	オーストラリア	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1
	日本	1	1	1	13	0	0	0	2	1	19	0	1	3	36
	ニュージーランド	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	オマーン	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	ポーランド	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	3	2
	ロシア	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	1	4
	南アフリカ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	2	3
	スリランカ	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	2
	スウェーデン	1	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	2	3
計		3	4	3	19	0	1	0	2	11	25	1	7	18	58
(注) 令和4年2月28日現在											合計		76		

3. 事後活動

参加青年は、内閣府青年国際交流事業の貴重な体験をいかし、積極的に事後活動を行うものとしています。事後活動は、一時的なものでなく、長期間にわたり継続的に行われていることが重要です。

1. 「日本青年国際交流機構」活動等

内閣府（旧総務庁）の実施している「青年海外派遣」「世界青年の船」「グローバルリーダー育成」「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」「東南アジア青年の船」「日本・中国青年親善交流」及び「日本・韓国青年親善交流」等の各事業に参加した青年は、日本青年国際交流機構を組織しています。

日本青年国際交流機構は、内閣府青年国際交流事業で得た成果を踏まえつつ、国際理解を深め、国際親善に寄与し、もって広く社会に貢献するとともに、会員相互の交流と研鑽を図ることを目的としています。

同機構は、現在約12,000名の会員を擁し、都道府県単位に行われる支部活動を始めとして、地域活動、本部活動と種々の活動を展開しています。

当事業の参加青年も、帰国後は同機構へ加入し、事後活動等を活発に行うことが期待されています。

また、都道府県の海外派遣事業の参加者による事後活動組織もあるので、事後活動において、これら

の関係団体との連絡、協力を進めることとしています。

2. 団体活動等

参加青年の中には、既に青少年団体又はグループに所属している者も多く、これらの団体に所属し、各団体の行う諸活動に積極的に参加し、海外研修の体験をこれらの活動に反映していくことも重要です。また、地域及び職域における活動についても同様です。

3. その他の活動

次のような活動は、所属団体又は日本青年国際交流機構の活動と重複することが多いので、事後活動として大切なものです。

- ① 参加青年が、派遣年度ごとに集まる機会を持ち、情報交換を行うこと。
- ② 内閣府及び関係団体が主催して行う全国大会及び地区別協議会へ参加すること。
- ③ 内閣府、地方公共団体及び関係団体等が行う外国青年招へい事業等により来日する外国青年の受入れに協力すること。参加青年として訪れた国の青年が来日する場合もあり、旧交を温める良い機会となる。
- ④ 地域に在住する外国青年（留学生・研修生等）との交流を定期的に行うこと。

4. 既参加青年による事後活動組織設立への動きとその歴史

1. 「世界青年の船」事業既参加青年の国際的連携を目指して

昭和63年度（1988）に開始された「世界青年の船」事業は、令和元年度（2019）に実施された「世界青年の船」事業の参加青年を加えると、日本青年は計延べ3,677人、外国青年は67か国で延べ4,474人となっています。これら既参加青年たちは事業で得た貴重な体験をいかして、地域、職場、学校等において国際交流活動、青少年活動を活発に行うことが期待されているほか、日本と参加各国との友好親善の懸け橋としての役割も期待されています。

各国の既参加青年の事後活動は、当初は基盤となる組織や資金、そして活動のノウハウが乏しく、積

極的な活動展開が難しい状態でした。しかし「世界青年の船」事業が回数を重ねるとともに既参加青年の層も厚くなり、情報が蓄積されたことと、インターネットの普及も影響して、グローバル・ネットワークの確立と社会貢献活動の活発化に向けて、少しずつ前進を始めるようになりました。

寄港地、参加国共に固定されないという条件の下で、本格的な地球規模の活動を展開するための基盤の確立は難しい点もあるかと思われませんが、国際連携組織の確立を目指して活動を推進していきたいと考えています。

2. 始まりはギリシャから

この構想の具体化の第一歩として挙げられるのは、平成6年2月（1994）に第6回「世界青年の船」事業の寄港国ギリシャのピレウスで行われた一つの集まりでした。これは、第4回事業に参加したハンガリーとスウェーデンの青年たちが日本の第4回事業の既参加青年と連絡を取り合い、ピレウスに入港中の「世界青年の船」に集合したものです。事前の準備不足や資金不足、連絡の不徹底等によって、集まった人数は少人数にとどまり、具体的な会議も設定できない状況だったものの、今後の展開を図る上での貴重な経験となりました。

3. 「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（インターナショナル・リユニオン）

このような経緯をたどり、正式なインターナショナル・リユニオンとして「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（東廻りコース）が平成7年（1995）3月2日～3日の二日間にわたり、メキシコのアカプルコに寄港中の第7回「世界青年の船」事業船上で開催されました。この会議には、寄港国メキシコの既参加青年を始めとして総計56人が参加し、親交を深めました。会議では、まず各国での事後活動組織の設立とそれを基盤とした各国内での活動の展開について議論が行われ、引き続いて日本と各国の事後活動組織の有機的な連携の方策と国際的なネットワークの構築について話し合われました。

最後に、第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議の結果ということで、今後の活動に関する提案文が承認され、その後の組織化の第一歩が印されました。以後、インターナショナル・リユニオンは平成18年度（2006）年まで運航中の「世界青年の船」事業のいずれかの寄港地で開催されました。

インターナショナル・リユニオンは当初は船上で行う二日間のプログラムでしたが、平成12年度（2000）のニュージーランドでの開催からは船上会議と訪問国活動を含む四泊五日のイベントとなりました。これまでの実績として、メキシコのアカプルコで3回（1995、1997、1999）、アラブ首長国連邦のドバイで1回（1996）、オマーンのマスカットで1回（1998）、南アフリカのケープタウンで1回（1999）、ニュージーランドのオークランドで1回（2000）、カナダのバンクーバーで1回（2002）、タンザニアのダルエスサラームで1回（2004）、オーストラリアのシドニーで1回（2005）、そしてモリシャスのポートルイ

スで1回（2006）開催されました。平成13年（2001）10月についてはケニア、平成19年（2007）2月にはフィジーでの開催が予定されていましたが、それぞれ、「世界青年の船」事業の航路変更のため、中止となりました。

インターナショナル・リユニオンは平成19年（2007）より名称を「SWYAA国際大会（英語名称：SWYAA Global Assembly）」と変え、事後活動協議会との同時開催で訪問国活動と関連しない時期に実施するようになりました。

4. 「世界青年の船」事後活動組織（The Ship for World Youth Alumni Association: SWYAA）の設立

第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（東廻りコース）に出席した第3回と第5回事業の既参加青年と第7回「世界青年の船」事業の参加青年によって「世界青年の船」事後活動組織についての原案がまとめられました。これを受け、第7回「世界青年の船」事業の船上においても熱心な討議が重ねられた結果、参加国ごとに3名のキーパーソンが決められ、今後のそれぞれの国における組織作りや各国との連携体制について定められました。その成果は、まず、エクアドルで事後活動組織が発足するという形となって現れ、その後も各国で次々と事後活動組織が設立されました。

5. 「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（東廻りコース）の開催

第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（東廻りコース）を受けて、各国の国内活動にとどまらず、本格的な既参加青年の国際的ネットワークを作ることを目指して、第1回「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議が平成8年（1996）1月16日～21日に東京で開催されました。

6. 「世界青年の船」事業既参加者（西廻りコース）の組織化

これまでは、東廻りコースの既参加青年の活動が先行していましたが、平成8年（1996）3月1日・2日の両日、アラブ首長国連邦のドバイ寄港中の第8回「世界青年の船」事業の船上において、既参加青年代表者会議（西廻りコース）が開催されるに至り、東廻りコースの活動状況が説明されました。また、平成9年（1997）1月16日から21日には、第2回

「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（西廻りコース）が開催されました。

7. SWYAA国際連盟設立へ

東西における事後活動組織の組織化の流れを受け、「世界青年の船」事後活動組織憲章の前身となる「世界青年の船」事後活動組織合意書（東）が平成8年（1996）1月にまとめられ、「世界青年の船」事業東廻り13か国が合意書に署名しました。翌年、「世界青年の船」事後活動組織合意書（西）がまとめられ、「世界青年の船」事業西廻り14か国

が平成9年（1997）1月に合意書に署名しました。その後、平成17年（2005）にはすべての事後活動組織が共通の目標を持って活動に取り組むことを目的として、二つの合意書（東）と（西）は「世界青年の船」事後活動組織憲章という統一の憲章にまとめられました。「世界青年の船」事後活動組織憲章は平成25年（2013）にSWYAA国際連盟憲章に改定され、「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議に参加した28か国が署名し、新しい憲章は平成26年（2014）1月1日に施行されました。（SWYAA国際連盟憲章はホームページ参照）

5. SWYAA国際連盟について

1. SWYAA国際連盟とは

「世界青年の船」事業、グローバルリーダー育成事業、「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」（以後、「世界青年の船」及び後継事業）で培われた精神を継続させることを目的に、各国で既参加青年のための組織が設立されています。SWYAA 国際連盟（Ship for World Youth Alumni Association International）は事業で培われた異文化理解、国際協力、国際平和の実現に向けてのリーダーシップ精神を推進し、支援しています。

2. 参加国

令和3年3月現在、正式加盟28か国、準加盟7か国が登録しましたが、非加盟の関係国を加えると67か国の国々が連携しながら、様々な社会貢献活動を展開しています。

3. 共通の使命と目標

1. 「世界青年の船」及び後継事業の既参加青年のネットワークを継続すること。
2. 加盟各国の友好関係を継続し、連携を強化すること。
3. 自国及び国際社会に貢献する活動に取り組むこと。
4. 自国及び加盟国において、社会に貢献するリーダーを育成すること。
5. 青少年分野を担当する自国政府との連携強化を図ること。
6. 加盟国の大使館との連携強化を図ること。特

に日本大使館との連携強化を図ること。

7. 日本人のコミュニティとの関係を深めること。

4. 共通の任務

1. 地域若しくは世界規模で社会貢献、ボランティアの取組、発展的な取組につながるような活動を企画すること。
2. 自国の会員のネットワークを強化すること。
3. 自国の会員及びSWYAA国際連盟加盟国の間で情報交換を強化すること。
4. 日本大使館とのコミュニケーションを図り定期的に活動報告をすること。
5. 「世界青年の船」及び後継事業の既参加青年と新しい参加青年とのコミュニケーションを図ること。
6. 今後、「世界青年の船」の後継事業に参加する青年を支援すること。
7. 既参加青年の正確な情報を把握し、保管すること。

5. 活動内容

① 「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議とは（通称：既参加青年会議 Ex-PY Conference）

原則年1回、内閣府が実施するSWYAA代表者のための会議。「世界青年の船」及び後継事業参加各国におけるSWYAAの形成・充実とそれを基盤とした各国内での事後活動の展開について情報交換を行うとともに、各国及び日本の既参加青年の有機的な連携による国際的ネットワークの構築に向けた

討議を行うことを目的としています。具体的には、SWYAAのネットワークを使って行う社会貢献活動や今後の事後活動の方向性、そして既参加青年がどのように事業に貢献できるかなどを話し合います。

これまでの会議の結果、ホームステイ・ネットワークの構築、事業に協力する既参加青年の指導官の推薦、参加青年のための事前準備マニュアルやナショナル・リーダーのためのハンドブックの作成、「世界青年の船」事業の紹介をするための広報用キット（プロモーション・キット）の作成、メーリングリスト使用のためのルール作り、そして事業参加予定者のためにSWYAAが実施する事前研修のガイドライン作成、といった成果が挙げられました。また、国内と世界に広がる会員のネットワークを活用して文化交流を促進させるとともに、更なるネットワークの強化を目的とした「グローバル・フォト・コンテスト」も平成16年度より4回にわたって開催されました。このほか、平成17年度にはSWYAA共通のロゴを決めるコンテストを開催、平成18年度には異文化理解ハンドブックをデータ化し、ホームページへの掲載を始めました。また、広報用に使用できる公式ビデオ（10分版）も完成しました。平成19年度には「世界青年の船」20周年記念事業の一環として、「世界青年の船」事業の各回の歴史や情報を集約するホームページの作成、SWYカレンダーの作成、チャリティ・ランチの実施及び環境への貢献活動として、「SWYの森（SWY Forest）」の植林に取り組むことなどが約束されました。平成20年度には国際支援活動として、ケニアで実施している国内避難民支援活動や、スリランカにおける就学支援に対して日本青年国際交流機構が協力することを約束しました。平成21年度から22年度にかけては、異文化理解教育のための教材を作ったり、「ホームステイ+1（プラスワン）」という名称でホームステイを受け入れながらボランティアなどの「+1（プラスワン）」の体験をさせたりする活動を広めることで合意しました。また、事業出身者でその後、功績を挙げた人の情報や、事業の意義についての参加青年の声を集約する動きも始まりました。

平成28年には加盟32か国の代表により共同声明が発表され、今後、以下の共通活動に取り組んでいく決意が示されました。

- (1) 「SWYAA自然災害復興支援（SWYAA Natural Disaster Relief）」－自然災害に見舞われた地域に対して、災害直後の支援

から継続的な支援まで提供する。

- (2) 「将来のための教育(Educate for Tomorrow)」－恵まれない状況にいる子供たちに、教育の質の向上や教育の機会を与えるための活動を各国で実施する。
- (3) 「SWYの森（SWY Forest）」－SWYの森の継続的發展を支援する環境関連事業
- (4) 「献血週間（Blood Donation Week）」－献血への意識向上と、年1回のSWYAA献血週間の開催を促進する。
- (5) 「差別の無い機会（Opportunities Without Discrimination）」－「SWYの日」に、差別の撤廃と多様性受容促進に向けた国際的なソーシャルメディアキャンペーンに参加する。
- (6) 「ホームステイ・プラス・ワン（Homestay +1）」：SWYの既参加青年が、他のSWY参加国を訪れた際に、ホームステイと社会貢献の機会をセットで提供する。

② SWYAA国際大会（通称：グローバル・アセンブリー）

運航中の「世界青年の船」事業の寄港地で開催していた既参加青年代表者会議（インターナショナル・リユニオン）を、平成19年度からはSWYAA国際大会（英語名称：SWYAA Global Assembly）に名称を変え、活動が活発な国で年1回実施するようになりました。この大会では、社会的な貢献活動を地域若しくは世界規模で推進し、またそのような活動を達成するための方策を協議する「事後活動協議会」を同時開催し、各国の事後活動の状況を集約し、成果を総括します。

- 第1回SWYAA国際大会 ギリシャ（平成19年9月5日～9日）
- 第2回SWYAA国際大会 日本（平成20年8月21日～24日）
- 第3回SWYAA国際大会 オーストラリア（平成21年9月2日～6日）
- 第4回SWYAA国際大会 エジプト（平成22年10月9日～12日）
- 第5回SWYAA国際大会 メキシコ（平成23年9月28日～10月2日）
- 第6回SWYAA国際大会 バーレーン（平成24年10月4日～8日）
- 第7回SWYAA国際大会 ペルー

(平成25年8月29日～9月2日)

- 第8回SWYAA国際大会 トルコ
(平成26年8月30日～9月3日)
- 第9回SWYAA国際大会 フィジー
(平成27年8月12日～16日)
- 第10回SWYAA国際大会 インド
(平成28年9月20日～24日)
- 第11回SWYAA国際大会UAE
(平成29年11月5日～8日)
- 第12回SWYAA国際大会トンガ
(平成30年11月19日～23日)
- 第13回SWYAA国際大会ロシア
(令和元年8月31日～9月5日)
- 第14回SWYAA国際大会カナダ
(令和2年8月16日～23日)

*新型コロナウイルス感染症の影響で中止

6. コミュニケーション・ツール

① SWY News

「世界青年の船」事業及び後継事業の事後活動関連の機関紙（英）。SWYAAのホームページを中心に発信しています。各国の事後活動組織の活動内容や世界各地の既参加青年からの近況報告等の

内容の記事が盛り込まれています。これまでに27号を発行しました。

② インターネットを活用した情報交換

情報の電子化に伴い、既参加青年同士の情報交換を活発化するため、平成8年度（1996）にメーリングリストを立ち上げました。また、平成11年度（1999）の既参加青年会議での話し合いを基に、平成12年度（2000）にSWYAA共通のホームページを立ち上げ、各国の活動をホームページ上で紹介するようになりました。そのほかにも、既参加青年全体で情報交換をする目的で、各種メーリングリストを立ち上げています。

URL www.swy.international

③ SWYAA Directory（住所録）

「世界青年の船」及び後継事業既参加青年の住所録には、全ての既参加青年の氏名、住所、電話番号、ファックス、Eメール、興味のある分野等が掲載されています。この情報は既参加青年同士が連絡を取り合い、活動を推進していく際に役立てられています。

内閣府青年国際交流事業報告書2021
令和3年度
「世界青年の船」事業(オンライン)

発行 内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町 1-6-1
TEL: 03-6257-1433
FAX: 03-3581-1609
URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集 一般財団法人青少年国際交流推進センター
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町 2-35-14
東京海苔会館 6階
TEL: 03-3249-0767
FAX: 03-3639-2436
URL: <http://www.centerye.org/>
編集協力 日本青年国際交流機構
URL: <http://www.iyeo.or.jp/>